

科目名	合唱Ⅰ			担当教員	小見山 純一	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2MVC105
期待される学修成果	基礎教養 教科教育					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	合唱への取り組みを通して生徒一人一人の表現技能をどのように高めていくかを理解するとともに、楽曲分析の在り方について実践的に追究し、表現の工夫に生かすことができる。					
授業の概要	生徒の発達段階を踏まえながら、変声期における合唱から本格的な混声四部合唱に至るさまざまな合唱曲を表現するとともに、その曲の味わいを醸し出す要素を中心とした楽曲分析に取り組む。そして、分析をもとにペアあるいはグループごとに討論をし、よりよい表現方法を追究していく。また、グループごとに模擬授業を行うことによって合唱指導法についてより実践的に学んでいく。					

授業計画	
第1回	中学校における歌唱指導及び合唱指導について「翼をください」
第2回	学校教育全般における合唱指導の実際「Believe」
第3回	楽曲分析の実際「旅立ちの日に」
第4回	二部合唱曲の楽曲分析と表現①「明日という大空」
第5回	二部合唱曲の楽曲分析と表現②「この星に生まれて」
第6回	混声導入期の合唱曲分析と表現①「夢の世界を」
第7回	混声導入期の合唱曲分析と表現②「Tomorrow」
第8回	混声導入期の合唱曲分析と表現③「カリブ夢の旅」
第9回	混声三部合唱の響き「COSMOS」、模擬授業の準備
第10回	楽曲分析と表現の工夫・模擬授業①「マイバラード」
第11回	楽曲分析と表現の工夫・模擬授業②「Let's Search For Tomorrow」
第12回	楽曲分析と表現の工夫・模擬授業③「時の旅人」
第13回	楽曲分析と表現の工夫・模擬授業④「ぜんぶ」
第14回	高等学校芸術科《音楽》における合唱教材の表現「夢みたものは・・・」
第15回	多様な合唱表現の鑑賞と表現の工夫

事前学修	0.5時間	毎時指示された合唱曲の楽譜に目を通しておき、主旋律の流れをつかむとともに、自分のパートの旋律が表現できるようにしておくこと。
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された内容を楽譜に整理しまとめること。また、授業で配布された資料の内容を確認し、自分なりに理解しておくこと。
フィードバックの方法	毎時提出するふりかえりシートをチェックし、返却する。模擬授業後に授業研究をし、課題がわかるようコメントをする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	50%	授業で取り組んだ曲の分析及び解釈に関するレポートを提出し、その内容を評価する。
上記以外の試験・平常点評価	25%	授業の参加度として、合唱表現に取り組む姿勢を評価する。

上記以外の試験・平常点評価	25%	模擬授業を実施し、事前準備や指導案の内容、全体指導の様子等から総合的に評価をする。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学生の音楽 1	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎 監修	教育芸術社	978-4-87788-850-3	なし
中学生の音楽 2・3 上	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎 監修	教育芸術社	978-4-87788-851-0	なし
中学生の音楽 2・3 下	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎 監修	教育芸術社	978-4-87788-852-7	なし
教員養成課程・保育士養成課程のための うたうソルフェージュ	木許 隆 監修	圭文社	978-4-87446-093-1	なし
参考資料	中学校学習指導要領、同解説《音楽》 高等学校学習指導要領、同解説《音楽》			

科目名	合唱Ⅱ			担当教員	小見山 純一	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング		
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	合唱体験を通して自らを表現することができる（伴奏を含む）。また、教材研究や楽曲分析を通して、指導者として生徒一人一人の表現技能を高めるための技術を身に付けることができる。					
授業の概要	主に中学校教科書で取り上げられている合唱曲を教材として扱う。自らの合唱能力を高めるとともに、生徒一人一人が充実した合唱活動を行えるような方法を実践的に追究する。そのために、ペアあるいはグループによる模擬授業を行い、授業後にはクラス全体で授業研究を行うことで学びを深めていく。					

授業計画	
第1回	ガイダンス・発声及び呼吸法（効果的な発声練習について）
第2回	中学校における歌唱指導及び合唱指導について
第3回	楽曲分析の実際「大切なもの」
第4回	学年による演奏・指導の変化①「ふるさと」（中学生の音楽1、2・3上、2・3下）
第5回	学年による演奏・指導の変化②「ふるさと」（中学生の音楽1、2・3上、2・3下）
第6回	楽曲分析と表現の工夫・模擬授業①「朝の風に」（中学生の音楽1）
第7回	楽曲分析と表現の工夫・模擬授業②「星座」（中学生の音楽1）
第8回	楽曲分析と表現の工夫・模擬授業③「夏の日の贈りもの」（中学生の音楽2・3上）
第9回	楽曲分析と表現の工夫・模擬授業④「メッセージ」（中学生の音楽2・3上）
第10回	楽曲分析と表現の工夫・模擬授業⑤「きみとともに」（中学生の音楽2・3下）
第11回	楽曲分析と表現の工夫・模擬授業⑥「大地讃頌」（中学生の音楽2・3下）
第12回	楽曲分析と表現の工夫・模擬授業⑦「春に（前半）」（中学生の音楽2・3下）
第13回	楽曲分析と表現の工夫・模擬授業⑧「春に（後半）」（中学生の音楽2・3下）
第14回	高等学校芸術科《音楽》における合唱教材の表現と指導法
第15回	多様な合唱表現の鑑賞と表現の工夫（まとめの合唱）

事前学修	0.5時間	毎時指示された楽曲を歌えるようにする。授業者からの課題を考えて読譜する。授業者は担当する楽曲分析を行い授業方法を考え、指導案やワークシート等を作成する。
事後学修	0.5時間	演奏した楽曲の見直しを行い、次の課題に繋げていけるよう考察する。また、授業で取り組んだ内容を復習し、自分なりに理解しておく。
フィードバックの方法	毎時提出するふりかえりシートをチェックし、返却する。模擬授業後に授業研究をし、課題がわかるようコメントをする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	50%	授業で取り組んだ曲の分析及び解釈に関するレポートを提出し、その内容を評価する。
上記以外の試験・平常点評価	25%	授業の参加度として、合唱表現に取り組む姿勢を評価する。

上記以外の試験・平常点評価	25%	模擬授業を実施し、事前準備や指導案の内容、全体指導の様子等から総合的に評価をする。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学生の音楽1	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎 監修	教育芸術社	978-4-87788-850-3	なし
中学生の音楽2・3上	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎 監修	教育芸術社	978-4-87788-851-0	なし
中学生の音楽2・3下	小原光一・飯沼信義・浦田健次郎 監修	教育芸術社	978-4-87788-852-7	なし
教員養成課程・保育士養成課程のための うたうソルフェージュ	木許 隆 監修	圭文社	978-4-87446-093-1	なし
参考資料	中学校学習指導要領、同解説《音楽》 高等学校学習指導要領、同解説《音楽》			